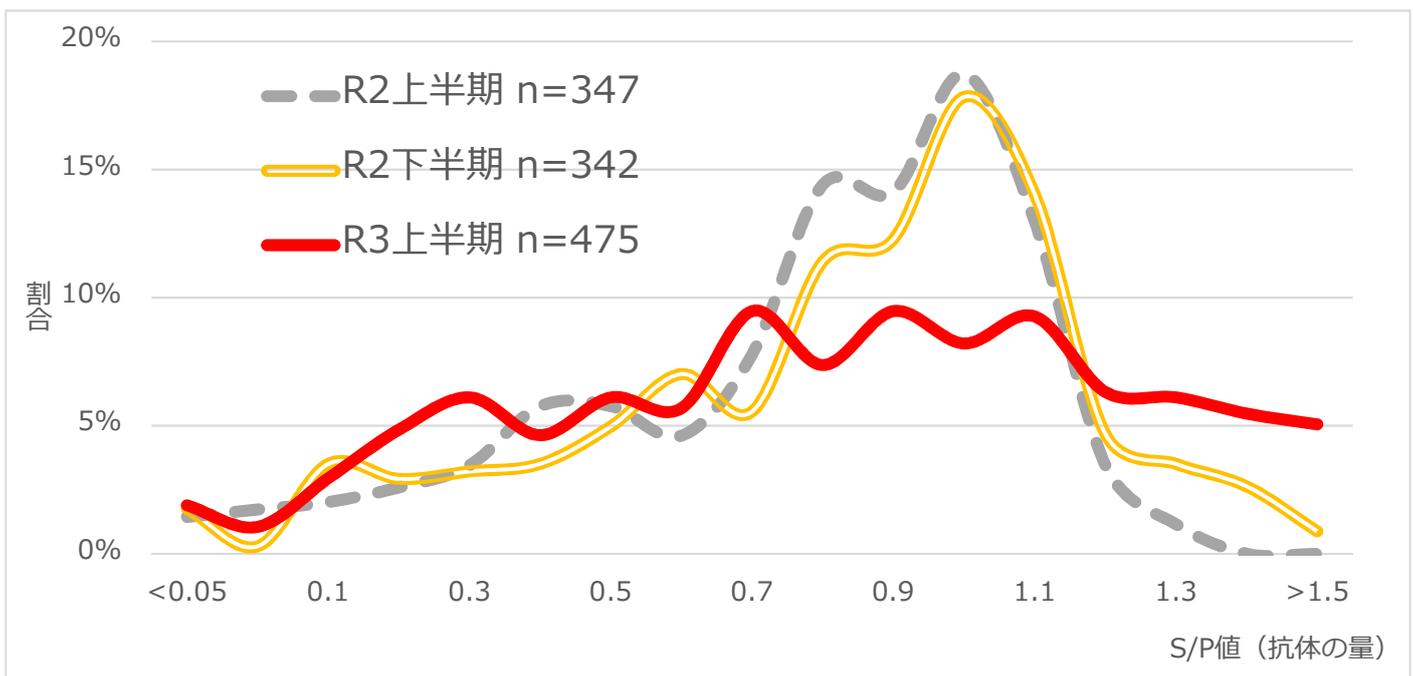




母豚の豚熱抗体価の分布が大きく変化しています

県下の母豚の抗体分布（ELISA S/P値による）が大きく変化していることを確認しました。



令和元年の初回一斉接種を受けた母豚は抗体価が高い傾向があり、産子のワクチン接種時期を遅らせていました

これからの母豚は低～中抗体価である傾向で、産子は受ける移行抗体の量が少なく、早期に消失する可能性があります

第1世代母豚	<p>免疫を持たない状態でワクチン接種された母豚。強い免疫反応が起こり、抗体価が高い。</p> <p>移行抗体なし → 高抗体価に</p>
第2世代母豚	<p>移行抗体を持った状態で接種された母豚。低～中程度の抗体価となりやすい。</p> <p>移行抗体あり → 低～中抗体価に</p>

第1世代と第2世代が混在し、母豚抗体価のばらつきが大きい時期に差し掛かっています。この時期は最もワクチン接種適齢期の設定が困難な時期となりますので、母豚や未接種子豚の検査等により、農場の抗体状況を把握し、発生予防に努めてください。